

サービス産業従事者の 生体負担軽減システムの提案

—生産現場への出張測定！多様な作業を記録できる—

現状技術

- 1 現状の作業環境は、介護者が患者を抱きかかえて所定の場所へ移動しています。
- 2 現場に従事する人達には、生体に負担がかかっています。

現在の環境例

○ どういう姿勢で、どこに力を入れれば良いのでしょうか



○ どのように行えば生体負担を少なく出来るのでしょうか

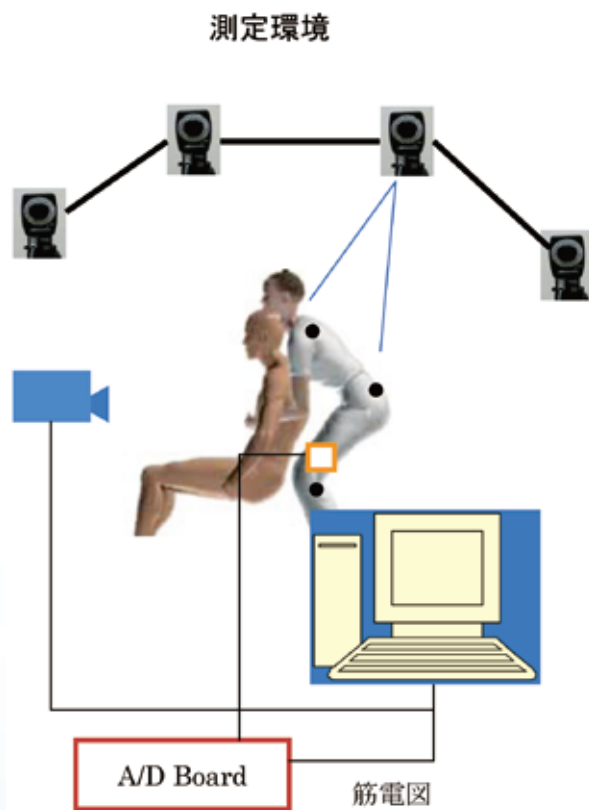
研究技術

- 1 医療・介護サービス従事者の生体負担をできるだけ軽減させるようにします。
- 2 そのためにその負担部位や姿勢などを具体的に特定します。
長年の経験をもつ従事者と初心者の動きの違いを比較し「熟練者の動きのコツ」を具体的に明らかにして、現場指導に役立てます。

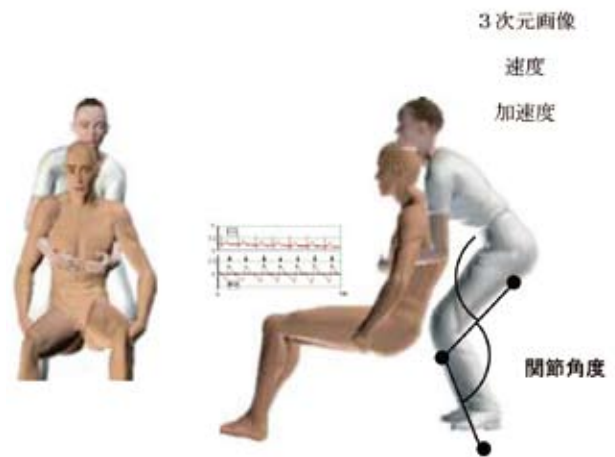
研究技術の展開

様々な場面での「生体負担」を明らかにすることで、以下の様な事が考えられます。

- (1) 作業負担が軽減されます。
- (2) 作業効率が良くなります。
- (3) 負担部位を予めサポーターやトレーニングにより保護できます。
- (4) より具体的な現場指導が可能になります。
- (5) 福祉用具などの開発に応用できます。
- (6) 本システム医療・介護のみならず、「ひと」が関係するあらゆる現場に応用できます。



本システムによる測定項目の一例



研究者

京都工芸繊維大学
大学院工芸科学研究科
数理・自然部門

准教授 芳田 哲也

環境生理学、
スポーツ科学、
応用健康科学
(医学博士)

研究テーマ

人間の運動能力に関する研究
人間の体温調節能力に関する研究
熱中症予防に関する研究
匠の技「こつ」の定量化に関する研究